令和3年　秋田米産地情報　[第8号：令和3年11月25日]

JA全農あきた米穀部

あきたからの米レター

令和3年産 水稲の作柄は「やや良」の見込み

地帯別作柄の良否は県北・中央・県南ともに「やや良」

秋田県の10a当たり平均収量は591kg

令和3年10月25日現在
東北農政局秋田県拠点

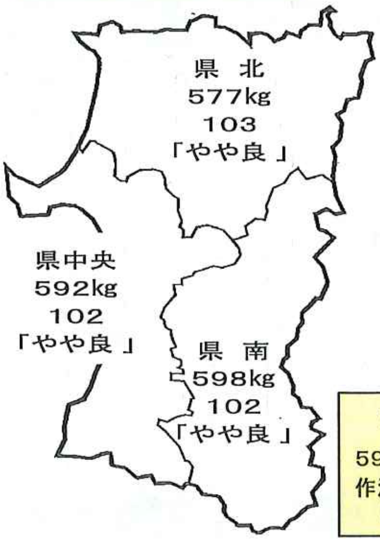
東北農政局秋田県拠点は、10月25日現在における秋田県の水稲の作柄は「やや良」が見込まれると発表した。これは、全もみ数（穂数×1穂もみ数）が平年に比べ「やや多い」となり、登熟（開花～成熟までの子実の肥大、充実）もおおむね順調に推移したとみられることから、10a当たり予想収量は591kgが見込まれるとしている。

作柄表示地帯別作柄概況（10月25日現在）

区分	10a当たり予想収量 ①	（参考） 農家等が使用しているふるい目幅で選別			作柄概況（平年比較）			
		10a当たり予想収量 ②	10a当たり平年収量 ③	作況指数 ④＝②／③	穂数の多少	1穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
	kg	kg	kg					
秋田	591	555	543	102	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
県北	577	541	526	103	多い	平年並み	やや多い	平年並み
県中央	592	551	539	102	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み
県南	598	565	554	102	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み

注：1. ①10a当たり予想収量は、1．70㎜のふるい目幅で選別さらに玄米の重量。
2. ②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数は、過去5か年間（平成27年産から令和元年産）に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において最も大きい割合の目幅（秋田県は1．90㎜）以上に選別された玄米を基に算出した数値。
3. 作柄概況（平年比較）に用いた表示区分は、「多い（良）」が106%以上、「やや多い（やや良）」が102～105%、「平年並み」が99～101%、「やや少ない（やや不良）」が95～98%、「少ない（不良）」が94%以下に相当。

地帯別作柄の良否



秋田
591kg／10a
作況指数102
「やや良」

第144回種苗交換会

県別作柄の良否

ー 秋田県の１等米比率９２．５％ ー

農林水産省10月29日公表

令和3年産米の検査結果(秋田)

品種	検査数量（トン）	等級別比率（%）			
		1等	2等	3等	規格外
9月末日	107,945	92.5	6.5	0.6	0.4
あきたこまち	97,002	92.5	6.5	0.6	0.5
めんこいな	3,586	93.0	7.0	0.1	—
ひとめぼれ	1,736	97.1	1.8	1.1	—
ゆめおばこ	352	92.6	6.8	0.7	—
萌えみのり	129	87.3	—	12.7	—

初検査:JA秋田なまはげ9月17日

農林水産省は10月29日、令和3年産米の本県の1等米比率（9月末現在、水稲うるち玄米）は92．5%であると発表した。過去10年間の平均（90．4%）に比較すると、同期比2．1ポイント増で、昨年に比較すると1．7ポイント減であった。銘柄別の1等米比率は、あきたこまち92．5%、めんこいな93．0%、ひとめぼれ97．1%、ゆめおばこ92．6%、萌えみのり87．3%となっている。東北全体の1等米比率は同期比93．4%、全国平均は同82．6%であると発表した。

本県の2等米比率は、前年同期比1．5ポイント増の6．5%、3等米比率は0．2ポイント増の0．6%、規格外は0．1ポイント増の0．4%となった。2等級以下に格付けされた理由として最も大きかったのは、カメムシによる着色粒が62．6%、次いで、胴割れ粒の被害粒が18．8%、未熟粒等の形質が13．5%であった。

8月上旬までは高温・多照、8月中旬から長雨・日照不足

出穂前後の高温は胴割れ粒とカメムシによる部分着色粒の発生

ー 稲刈りの始期（5%）は4日早い9月17日、盛期（50%）は5日早い9月26日 ー

刈り取りの進捗状況

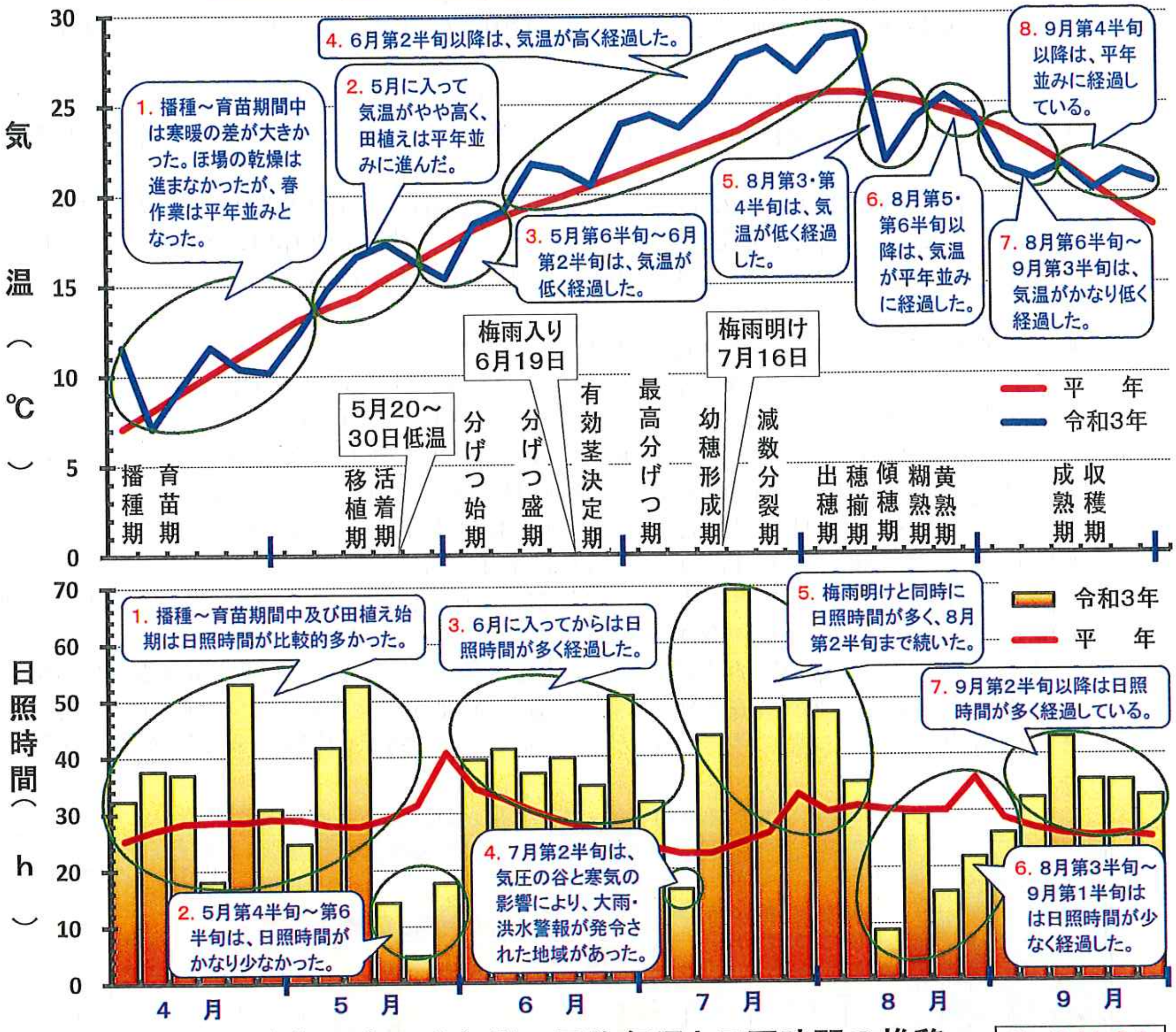
県農林水産部
水田総合利用課

地域	水田面積	出穂期	成熟期	9月				10月				始期(5%)		盛期(50%)		終期(95%)	
		月.日	月.日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	月.日	差	月.日	差	月.日	差
鹿角	2,446ha	7.31	9.15	0.2	1.5	8.5	38.5	62.1	79.9	91.8	96.5	9.25	−2	10.3	−6	10.19	−3
北秋田	7,335ha	7.27	9.13	2.7	30.5	51.1	72.4	83.3	96.5	99.2	99.4	9.17	−7	9.25	−7	10.10	−5
山本	9,053ha	7.29	9.14	6.5	29.0	49.4	66.5	87.4	95.0	97.6	98.5	9.15	−7	9.26	−5	10.10	−1
県北	18,834ha	7.29	9.14	4.2	25.9	44.8	65.2	82.5	93.6	97.5	98.6	9.16	−7	9.26	−6	10.12	−4
秋田	23,131ha	7.28	9.11	7.4	30.6	51.2	81.4	89.4	97.3	99.1	99.7	9.14	−6	9.25	−3	10.9	−3
由利	8,370ha	7.30	9.16	0.3	8.9	46.8	59.5	83.3	95.6	98.8	99.5	9.19	−4	9.26	−5	10.10	−4
中央	31,501ha	7.28	9.12	5.5	24.8	50.0	75.6	87.8	96.8	99.0	99.6	9.15	−6	9.25	−5	10.10	−4
仙北	20,170ha	7.30	9.17	2.5	15.0	50.0	75.0	88.0	95.0	97.0	99.0	9.19	−1	9.25	−5	10.10	0
平鹿	11,100ha	7.31	9.14	1.8	5.3	35.0	64.5	83.8	95.7	97.5	99.7	9.20	−3	9.27	−4	10.10	−1
雄勝	6,073ha	7.30	9.12	1.5	8.8	34.8	58.6	83.2	95.7	97.9	99.9	9.19	−4	9.28	−4	10.9	−2
県南	37,343ha	7.30	9.14	2.1	11.1	43.1	69.2	86.0	95.3	97.3	99.4	9.19	−2	9.26	−5	10.10	−1
全県	87,678ha	7.29	9.14	3.8	19.2	45.9	70.6	85.9	95.5	97.9	99.3	9.17	−4	9.26	−5	10.10	−4

令和3年　　秋田米産地情報　　[第8号：令和3年11月25日]

JA全農あきた米穀部

稲作期間中の気象と生育概況



稲作期間中の半旬別日平均気温と日照時間の推移　秋田地方気象台

(1)　育苗期（4月）

4月の日平均気温（10.1℃）は平年より0.5℃高く、日照時間（平年比123％）はかなり多かった。播種作業の盛期（50％）は4月22日で平年並となった。また、耕起などの春作業も順調に進み平年（5月3日）より1日早かった。

苗の生育は、苗丈がやや短く（平年比86％）、葉数は平年より進み（平年差＋0.3葉）、乾物重（平年比117％）が重く、充実度（同133％）は平年を上回った。

(2)　移植期（5月）

5月は、日平均気温（15.4℃）が平年に比べ＋0.2℃で平年並みであったが、5月下旬の日平均気温は平年より1.1℃低かった。また、5月の日照時間は平年の84％と少なく、降水量は平年の171％とかなり多かった。

全県の田植え盛期（50％）は5月22日、終期（95％）は5月30日で平年並みとなった。5月下旬は前線と低気圧の影響により低温が続き、一時田植えを見合わせた期間があった。この時期に田植えを行った沿岸部の一部地域で代枯れや活着不況がみられた。

(3)　分げつ期(6月)

6月の日平均気温(20.8℃)は平年に比べ1.2℃高く、日照時間(243.2h)は平年に比べかなり多く、降水量は平年(76.0㎜)より少なかった。「梅雨入り」は平年より5日遅い6月19日であった。

分げつ始期(6月10日)の生育は、5月下旬の低温・寡照の影響により、草丈は25.5cm(平年比101%)、㎡当たり茎数は115本(同74%)と極端に少なく、葉齢は5.9葉(平年差−0.2葉)であった。

有効茎決定期(6月25日)の生育は、草丈は37.6cm(平年比103%)、㎡当たり茎数は388本(同94%)、葉齢8.9葉(平年差＋0.3葉)で遅れていた生育は回復しつつあった。しかし、5月下旬に田植えを行った一部の地域では生育の遅れが目立った。

(4)　最高分げつ期～減数分裂期(7月)

7月の日平均気温(26.0℃)は平年に比べかなり高く(＋2.6℃)で推移した。日照時間(259.4h)は平年の173%でかなり多く、降水量は平年(平年比127%)より多かった。

最高分げつ期(7月5日)の生育は、草丈が51.5cm(平年比104%)、㎡当たり茎数548本(同101%)、葉緑素計値43.9(同99%)、葉齢10.3(平年差＋0.3葉)であった。

幼穂形成期(7月15日)の生育は、草丈が66.3cm(平年比106%)、㎡当たり茎数532本(同99%)、葉緑素計値41.7(同99%)、葉齢11.4(平年差＋0.4葉)であった。

減数分裂期(7月26日)の生育は、草丈が82.4cm(平年比112%)、㎡当たり茎数482本(同97%)、葉緑素計値37.8(同98%)、葉齢12.7(平年差＋0.5葉)であった。

最高分げつ期から減数分裂期にかけて高温・多照で経過し、適度な降水に恵まれ、溝掘りや中干しによる水管理が徹底され、穂肥と実肥の追肥を控えたほ場が多かった。こうした高温・多照は斑点米カメムシ類の生息密度が高まることから、防除の徹底と草刈りの実施を呼びかけた。

令和3年の日平均気温・最高気温と過去の高温年次との比較

地域	年次	西暦	7月											8月																		
			21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
秋田	H- 6	1994													出																	
秋田	H-11	1999												出																		
秋田	H-12	2000													出																	
秋田	H-22	2010										出																				
秋田	H-24	2012															出															
秋田	H-28	2016											出																			
秋田	R- 1	2019													出																	
秋田	R- 2	2020													出																	
秋田	R- 3	2021									出																					

地域	年次	西暦	8月												9月												収量	1等米比率
			20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	kg／10a	%
秋田	H- 6	1994																									592	89.7
秋田	H-11	1999																									580	51.4
秋田	H-12	2000																									575	84.6
秋田	H-22	2010																									535	72.9
秋田	H-24	2012																									569	87.0
秋田	H-28	2016																									591	92.5
秋田	R- 1	2019																									600	85.0
秋田	R- 2	2020																									602	91.2
秋田	R- 3	2021																									※591	※※92.5

凡例
- (赤)：日平均気温30.0℃以上、日最高気温35.0℃以上に両方超えた日
- (橙)：日平均気温30.0℃以上、日最高気温35.0℃以上にどちらかが超えた日
- (黄)：日平均気温25.0～29.9℃、日最高気温30.0～34.9℃に両方到達した日
- (淡黄)：日平均気温25.0～29.9℃、日最高気温30.0～34.9℃にどちらかが到達した日
- (白)：日平均気温24.9℃以下、日最高気温29.9℃以下の日

※：10月25日現在
※※：9月30日現在

(5)　出穂期（8月上旬）

6月中旬から8月上旬まで続いた高温・多照は生育を早め、「あきたこまち」が誕生して以来、過去に類を見ないから早さ（－5日）で出穂期（7月31日）を迎えた。

東北農政局秋田県拠点が発表した作柄概況でも、出穂最盛期（50％）は8月1日で平年より4日早まった。

(6)　登熟期（8月中旬～）

8月の日平均気温(25.5℃)はほぼ平年並み（平年比＋0.5℃）で推移した。日照時間（158.9h）は平年比85％と少なく、降水量(172.5㎜)は平年比93％で平年並みであった。登熟中・後期の日平均気温は平年並みに推移したが、日照時間が少なく粗玄米千粒重の増加が一時鈍化した。

8月20日の生育は、㎡当たり穂数は452本（平年比102％）、1穂当たり着粒数は74.7粒（同102％）、㎡当たり総籾数は33.6千粒（同103％）であった。

(7)　病害虫の発生

病害虫防除所が8月上旬に調査した結果では、穂いもちの発病株率と発病地点率は平年並みであったが、県南部ではやや多かった。また、斑点米カメムシ類は、6月中旬から8月上旬まで高温・多照で経過したことから、水田内のすくい取りの発生地点率は平年と比較していずれも多かった。

(8)　今年の気象は、播種から刈り取りまで気象変動が非常に大きかった。5月中旬～6月上旬の低温・寡照、6月中旬～8月上旬までの高温・多照、8月中旬～9月上旬は極度の日照不足など観測史上記録的な気象で経過した。こうした天候にもかかわらず、生産者の弛まない努力により、10月25日の10a当たり収量は591kg、作況指数「102」、作柄は「やや良」となった。

集荷された玄米の品質は良好、炊き上がりは「粘り」があって「うま味」が凝縮され、自信を持って消費者にお届けできるおコメに仕上がっております。

各JA「あきたこまち」の品質・収量概況　（令和3年11月15日現在、達観調査及び聞取）

JA名	収穫量	1等米比率	主な落等理由（上位3項目）	特記事項
かづの	平年並み	93%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・出穂時の高温
あきた北	平年並み	92%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・出穂時の高温で胴割れ
秋田たかのす	平年並み	90%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・出穂時の高温
あきた白神	平年並み	88%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・高温時出穂ほ場で胴割れ
秋田やまもと	やや良	89%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・高温時出穂ほ場で胴割れ
あきた湖東	平年並み	89%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・減収、出穂時の高温
秋田なまはげ	やや不良	92%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 胴割れ粒、3. 充実度不足	・減収、個人差大きい
大潟村CE公社	平年並み	98%	1. 着色粒（クサビ）、2. 充実度不足	・出穂時の高温
秋田しんせい	やや良	95%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・出穂時の高温影響なし
秋田おばこ	やや良	96%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒目立つ
秋田ふるさと	やや良	94%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒目立つ
こまち	やや良	95%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒目立つ
うご	やや良	96%	1. 着色粒（カメムシ）、2. 充実度不足、3. 胴割れ粒	・着色粒多い

1穂籾数多く、総籾数が収量に反映

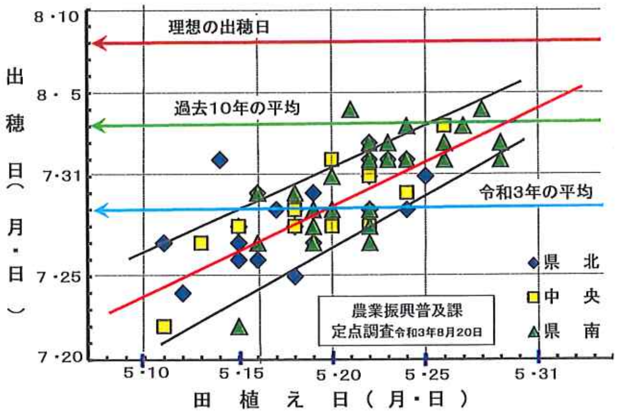
地域振興局農林部農業振興普及課定点調査

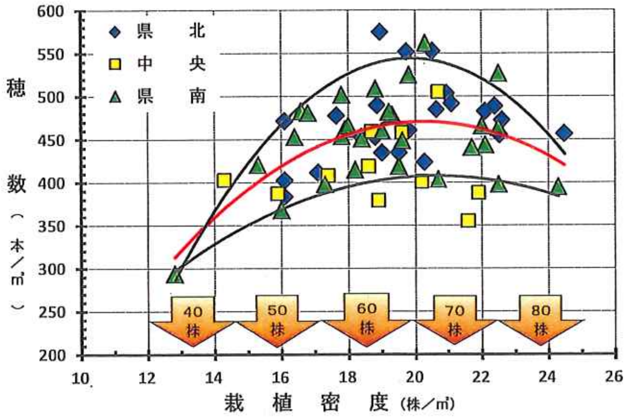
各地域振興局農林部農業振興普及課の定点ほ場における成熟期(9月15日)の調査結果では、全県平均でみると、稈長は85.0cm(平年比103%)、穂長は18.3cm(同103%)、穂数は452本/㎡(同101%)、1穂籾数は72.7粒(同103%)、総籾数32.7千粒/㎡(同105%)となっている。総籾数が多いのは、6月中旬～8月上旬までの高温・多照により目標の穂数が確保されたこと。加えて、溝掘り・中干しが十分に行えたことにより、1穂籾数の増加につながったことが要因にあげられる。出穂は5日早い7月29日、出穂前後は高温・多照に恵まれ初期登熟は順調に推移した。しかし、8月中旬～9月上旬は長雨と日照不足により、登熟中・後期は緩慢となったが、登熟歩合、千粒重はほぼ平年並みであった。刈り取りの始期は(5%)は平年より4日早く始まり、盛期(50%)は5日、終期(95%)は1日でいずれも早まった。

農業振興普及課定点調査結果

(令和3年9月15日調査、品種:あきたこまち)

農業振興普及課	調査点数	成熟期		稈長(cm)		穂長(cm)		穂数		1穂当たり着粒数		㎡当たり着粒数	
		本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比
		月.日	日	(cm)	(%)	(cm)	(%)	(本/㎡)	(%)	(粒)	(%)	(千粒)	(%)
鹿角	5	9.15	−3	77.2	96	16.9	98	503	105	64.0	96	32.2	101
北秋田	9	9.13	−1	86.0	105	18.2	105	477	103	69.6	103	33.1	106
山本	9	9.14	−3	85.3	106	18.6	104	446	100	73.5	103	32.7	103
県北	23	9.14	−2	83.8	103	18.1	103	470	102	69.9	101	32.8	104
秋田	10	9.11	−3	85.1	102	18.9	106	413	95	74.7	102	30.8	97
由利	2	9.16	−4	82.7	103	18.5	103	447	104	68.6	99	30.2	103
中央	12	9.12	−3	84.7	102	18.8	105	418	96	73.6	102	30.8	98
仙北	10	9.17	2	86.3	106	18.2	102	447	100	72.3	105	32.3	106
平鹿	11	9.14	−4	86.3	101	18.3	102	469	106	75.1	103	35.0	109
雄勝	8	9.12	−6	85.7	103	18.6	105	431	97	76.3	111	32.8	108
県南	29	9.14	−3	86.1	103	18.4	103	451	102	74.5	106	33.5	108
全県	64	9.14	−2	85.0	103	18.3	103	452	101	72.7	103	32.7	105





JA全農あきた米穀部

10a当たり平均収量600kg、平年比104%

1穂籾数多く、総籾数の増加が収量に反映

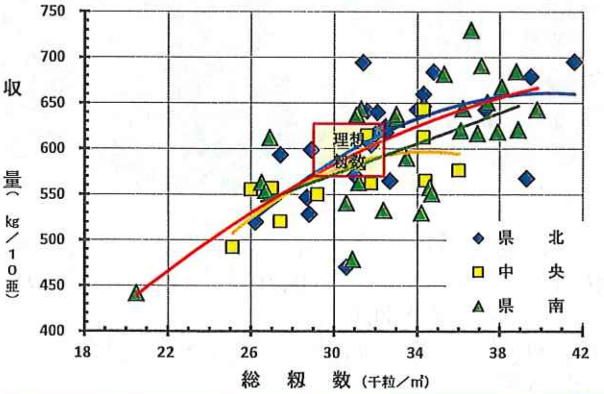
地域振興局農林部農業振興普及課定点ほ場

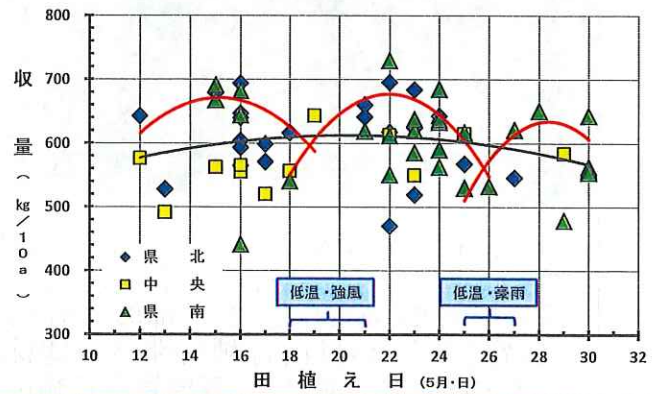
各地域振興局農林部農業振興普及課定点ほ場の収量調査の結果では、全県平均でみると、収量は600kg(平年比104%)、全重は1，518kg(同103%)、精籾重は790kg(同104%)、登熟歩合は86．4%(平年差－1．6)、千粒重22．8g(平年比101%)となっている。

収量を左右した要因は精籾重の増加によるもので、これは1穂籾数が多いことによる総籾数の増加が反映したものと推察される。出穂前後は高温・多照により、初期登熟は順調であったが、沿岸部を中心に高温出穂による胴割れ粒の発生がみられた。登熟中・後期は長雨と日照不足で経過したことから登熟は一時鈍化したが出穂期が早まったことにより、登熟期間が伸びたことで、登熟歩合の落ち込みや千粒重の減少が小さく、ほぼ平年並みに経過した。

農業振興普及課定点調査結果　(令和3年10月25日調査、品種:あきたこまち)

農業振興普及課	調査点数	全重		ワラ重		精籾重		玄米重		登熟歩合		千粒重	
		(kg/10a)	平年比	(kg/10a)	平年比	(kg/10a)	平年比	(kg/10a)	平年比	(%)	平年差	(g)	平年比
鹿角	5	1，512	97	703	96	798	102	614	105	84．8	0．1	23．2	103
北秋田	9	1，561	105	752	106	799	105	618	104	85．4	－3．0	23．0	102
山本	9	1，579	107	724	106	827	107	602	102	83．5	－2．7	22．8	102
県北	23	1，557	104	730	104	810	105	611	104	84．5	－2．2	23．0	102
秋田	10	1，564	106	783	115	764	100	570	101	90．4	4．0	22．6	101
由利	2	1，437	103	680	109	744	102	567	103	89．8	3．2	22．6	99
中央	12	1，543	106	766	114	761	103	569	101	90．3	3．8	22．6	101
仙北	10	1，473	101	695	102	765	102	600	102	79．9	－6．9	23．1	102
平鹿	11	1，450	100	627	97	788	103	595	105	84．4	－1．3	22．3	99
雄勝	8	1，521	106	610	100	810	107	622	109	83．6	－2．4	22．7	101
県南	29	1，477	102	646	100	786	104	604	105	82．6	－3．6	22．7	101
全県	64	1，518	103	699	104	790	104	600	104	84．8	－1．6	22．8	101





第144回秋田県種苗交換会

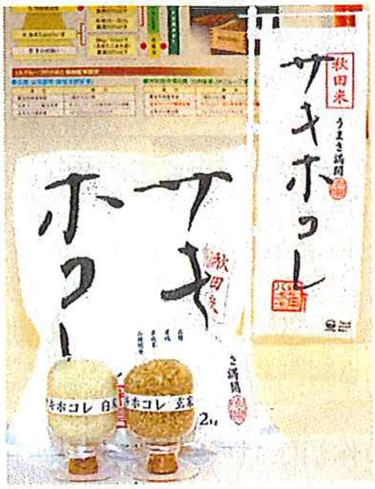
第144回秋田県種苗交換会が10月29日から11月4日までの7日間、能代市で開催された。「白神の空へとどけ！豊穣の祈り。大地の恵みを能代から。」をキャッチフレーズに、能代市総合体育館を主会場として行われた。新型コロナウイルスの感染が収束せず、規模を縮小して行われた。昨年に続き、種苗交換会は長い歴史を持つ農業の祭典を途切れさせまいと、感染対策を徹底して臨んだ。コロナ禍の中、県農業の将来像を考える交換会となった。

今年は1月の大雪、4月下旬の低温、6月の降雹、7月の高温等で農作物の生育に影響を及ぼす気象となった。こうした中、生産者の努力により1，216点が出品され品質の高い農産物が多くみられた。第一部の水稲では35点が出品された。

入賞された株稲は、品種特性が良く現れており、根や茎葉も健全で籾の熟色が良く、病害虫のない秀品揃いで、栽培管理技術の高さが見られた。

秋田米新品種「サキホコレ」コーナー

秋田県の次代を担う新品種「サキホコレ」の展示を行った。県農林水産部水田総合利用課秋田米ブランド推進室が主催し、農業試験場が後援、JA全農あきた米穀部が協力する体制でブースを設置した。コロナ禍で試食は出来なかったが、生産者や消費者の関心が非常に高いことが伺われた。



本格的な市場デビューは令和4年度、産地間競争が激化する中、コメどころ秋田の存在感を示すブランド米として、生産者をはじめとするJAグループや県関係機関と一体となった取り組みを推進することにしている。今年は先行作付けと、生産された「サキホコレ」は11月6日に県内はもとより全国に先行販売を始めた。

秋田米新品種「サキホコレ」
先行販売キックオフイベント

令和3年11月6日
東京銀座三越新館9Fテラスルーム

第144回秋田県種苗交換会が10月29日から11月4日まで能代市で開催された。昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、農産物の出品数も約2，000点から1，200点に減らして行われた。「歴史の火を絶やすことなくつなげたい」と関係者の強い思いで実現した。

今年の気象は、4月の播種から9月の刈り取りまで、気象変動が非常に大きかった。田植えが本格的に始まった5月中旬は、低温と強風により田植えを控えた地域があった。6月下旬～8月上旬までは高温・多照で経過し、溝掘りや中干しが実施され、一茎の充実や栄養成長から生殖成長への体質改善が十分できた。しかし、この高温・多照は過去に類をみない早さで出穂期を迎え、初期登熟は順調に推移したが、一部地域で高温障害による胴割れ粒の発生が確認された。8月中旬からは、一転して長雨や日照不足に見舞われた。

東北農政局が10月25日現在の作柄状況を発表した。本県の作柄は10a当たり収量が591kg、作況指数102の「やや良」であった。地帯別作況指数は県北は103、県中央と県南は102となり、作柄はいずれも「やや良」であった。また、同拠点が同日に発表した9月末日現在の1等米比率は92．7%であった。前年同期に比較すると2．7ポイントの増で、恐れていた出穂前後の高温・多照による影響と、登熟中・後期の長雨と日照不足による影響は少なかった。

こうした天候にもかかわらず、農家の高い生産技術力と弛まない努力により、作柄は「やや良」、1等米比率92．5%を確保できたことは大変喜ばしいことである。また、炊き上がったご飯は「粘り」があって「うま味」が凝縮されており、自信を持って消費者にお届けできる米に仕上がっていた。

こだま

全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558
秋田市八橋南2-10-16
URL:https://www.zennoh.or.jp/ak/

次回の発行は12月20日頃

資料の使用に当たっては米穀部の許可を得る

JA全農あきた米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷295-53
TEL:018-845-8500
FAX:018-880-1572